

公開講演会 国内奨学生のお話を聞く会 ①

明治初期における浪漫主義の問題

— 北村透谷における厭世的主体の生成 —

日時：2019年7月13日（土）10:00-12:30
場所：ユニコムプラザ相模原，ミーティングルーム4
ユニコムプラザ相模原 <http://unicom-plaza.jp/>
（小田急線相模大野駅徒歩3分）

講師：陳璐さん
2018年度 一般社団法人大学女性協会奨学生、
東京外国語大学博士後期課程、
ハワイ大学客員研究員、明星大学非常勤講師

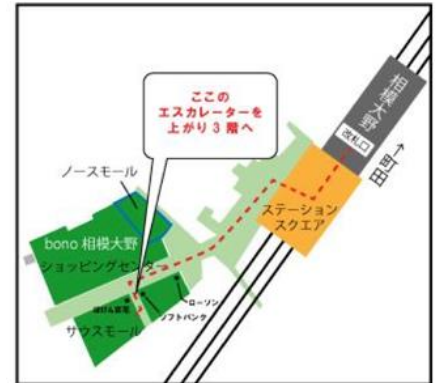
募集人数：30名程度

参加費：500円

申込：一般社団法人 大学女性協会 神奈川支部
e-mail jauwkanagawashibu@yahoo.co.jp

緊急連絡先：一般社団法人 大学女性協会 本部事務局 TEL 03-3358-2882

締切：7月10日（水）（簡単な昼食を準備する都合上、厳守）



陳璐さんの研究概要と将来の抱負

（大学女性協会 会報 266号 2019年3月発行から 抄録）

日本は、明治維新の開国により急激に西洋化した為、東西両文化の混在は、それ以後の大きな問題となった。明治時代の浪漫主義文学の代表的作家である北村透谷に焦点を当て、文化的多元性と思想的多層性を考察する。透谷の思想の独自性は、東洋と西洋の思想的混在という時代背景と、彼自身による東西文化・思想の取捨選択という個の経験によって形成された。そこで、東西両文脈を交差させる思想という視点から、透谷の全体像の基底にある自由・自然・生命という三つの相関しあう系列的な概念を考察し、東西両文脈が流動的に変容し融合した透谷の思想体系を系統的に明らかにすることを試みる。同時代の関連する思想家や言論を比較しつつ、透谷の言論が、同時代の思想と如何なる対立関係を持ったのかを探求し、そのことを通じて透谷を明治文学史・思想史に再定位したい。

将来は、教育と研究という立場から日中両国の文化のキャップを埋め、そして日本研究の国際化に力を注ぎ、世界への発信と国際的な交流を重視していきたい。

北村透谷：(1868.11.16.~1894.5.16.)

詩人・評論家。本名、門太郎。自由民権運動に加わったが、挫折。キリスト教に転じ受洗。絶対的平和主義の運動を行なった大阪事件とのかかわりをうたった『楚囚之詩』(1889)や、壮大な宇宙感の終末観、厭世観をこめた劇詩『蓬莱曲』(91)、恋愛論『厭世詩家と女性』(92)などを発表。島崎藤村、平田禿木、戸川秋骨らと93年に『文学界』を創刊。日本の初期浪漫主義運動を展開したが、理想と現実の間でなやみ、自死。27歳。自我の確立と精神の自由を説く。

奮ってご参加ください